

# 根室支部

## 1. 支部の歩み

根室支部は、昭和60年代に学校体育研究会の結成の動きが高まったが、結成までには至らなかった。その後、平成9年に有志4名が本部を訪問し設立へのアドバイスをいただき、平成10年に30余名の会員で正式に発足をした。

初代会長に、設立中心の一人であった丸山マサル氏が就任した。副会長には2代目の会長であり全道大会の実行委員長の楠瀬功氏が就任した。根室管内は、根室市と羅臼町では距離にして約150<sup>キロ</sup>、車で2時間30分余り離れており、日々、会員が集まり研修をすることが困難でもあった。そのため、一市四町や近隣同士での授業研究を中心に実践交流を進めた。年に数回の研究会では、授業研究の一方、札幌、旭川、釧路から講師を招いての講演会を開催し、優れた実践を根室管内にも取り入れていった。この頃には、北海道学校体育研究大会に参加する先生も多くなり、全道の実践を参考に各学校で実践が広がっていった。

根室支部発足3年目の平成12年には、3年後の第40回北海道学校体育研究大会根室大会の開催が決まり、設立後間もなく実践の少ない根室支部であったが、全道大会を契機に支部の結束と更なる向上を目指した活動を進めた。根室管内の児童生徒の体力の分析、生活実態の把握や複式校や併置校を多く抱える各学校の悩み・問題点などをさぐっていった。

折りしも、平成13年度に釧路支部より辻川尚志教頭先生を根室支部の一員として迎え、研究の方向性や研究内容の焦点化を図りながら、課題解決に向けた実践・研修を推進した。

平成15年10月10日に全道各地からの多数の参加を



小学校 キンボールの授業

いただき盛会に開催することができた。

全道大会後は、定年退職される方が年々おり、新会員の加入が少なくなり会員の減少が続いている。現在は、羅臼町の会員が不在となり20名を割ったが1市3町の中で実技研修、授業研修を中心に活動を進めている。



中学校 男女共習バスケットボールの授業

## 2. 研究内容

根室管内は90%が小規模校や併置校である。平成20年代に入り、更に少子化や街の中心部に転居する家庭が増え、学年で10名前後、複式校での2学年合わせても3人～5人程度の学校規模が増加している。このため、集団スポーツが更に困難となってきた。また、中学校における体育教師が1人の学校がほとんどであり、体育教師がいなく免許外で指導している学校も多くある。新卒や若い先生が多く教材研究や教科経営の悩みを相談できない状況にもある。その中にあり、体育教師及び体育を指導している者として悩みを話し合ったり、技術交流ができる場所として、進めている。

根室の特色を生かしつつ、根室管内が抱える課題を解決していく研究を推進することの認識のもと

- ・楽しい体育の追求
- ・基礎となる技術の習得
- ・子供が主体的に関わる授業の構成
- ・楽しさから主体的へつなげる体育授業
- ・子供の力を十分引き出す授業の工夫

これらの教師個々が持つ体育授業の願いを実現するために

